

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 塚 本 早 織

論 文 題 目 The Role of Psychological Essentialism in
Intergroup Attitude Formation

(集団間態度の形成における心理的本質主義の役割)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 唐沢 穰

委 員 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 川口 潤

委 員 名古屋大学大学院環境学研究科 准教授 鈴木敦命

論文審査の結果の要旨

社会集団や社会的カテゴリーの存立基盤として、その成員に必要不可欠な要素、すなわち「本質」を求めるカテゴリー理解の様式を「心理的本質主義」と呼ぶ。本質主義の特徴として、それが直感的な素朴理論であること、そして成員の属性に関する過度の期待や推論を導くため、偏見やステレオタイプの根拠となり、排斥や差別の一因となる可能性をもつことが指摘されてきた。ところが、実証的な社会心理学研究の結果は必ずしも一貫しておらず、心理的本質主義と偏見・差別等との関連は明確でない。この問題を解決するために本研究は、本質主義的信念の基礎をなす認知的過程と、関連する社会・文化的要因との関係を明らかにすることを目的に行われた。

著者はまず第1章で、広範な文献レビューの結果をもとに、自然的要素(naturalness)に本質を求める過程と、成員間の類似性等を基にカテゴリーを具体化・実体化する過程(reification)とを概念的に区別し、それぞれの観点からの分析を行うことの重要性を指摘する。続く第2章では、5つの実験研究によって上述の主張に対する実証的検討を行っている。研究1では、「日本人」カテゴリーを題材に採り、これに関する本質主義の構成要素を明らかにするとともに、本質主義的信念の強さを測定するための尺度構成に成功している。研究2では、この本質主義的信念が、自国民と他国民の差異を強調する認知を誘発する可能性を示唆し、さらに研究3では、国家主義的傾向との交互作用によって他国民に対する排斥的態度を助長する過程を示した。転じて研究4では文化的認知特性との関連について検討を加え、オーストラリア人と比べて日本人は、個人よりも集団の属性に一貫性を認知し本質主義を適用する擬人的傾向が強いことを見いだした。最後に研究5では、性別カテゴリーに関する本質主義的信念を取り上げ、これが司法という現実場面における事象の認知に与える影響を明らかにしている。

本研究は以下の点で高く評価できる。まず、本質主義的信念と集団間態度の関係に関する、混乱した実証的知見を整理するための概念的枠組みを提供したという理論的意義、また、知覚者自身の内集団に関する本質認知が、外集団に対する偏見や排斥に至る過程を理解する上で重要な鍵となることを示した実証的意義が認められる。さらにこの知見を、異文化間接触やジェンダーに関する社会的認知といった、現実的文脈に適用することにより、集団間の葛藤や差別的行動の低減に寄与するという実際的可能性をもっている。多岐にわたる問題領域における知見を、互いに関連づけ、さらに精緻な議論へと発展させることが今後の課題として期待される。

以上の理由から、本研究には十分な学術的および応用的貢献が認められる。よって、本論文の提出者である塚本早織氏は博士(心理学)の学位を授与される資格があるものと判定した。